

熊本・徳永直の会会報

第53号

どうぞよろしく

新会長 高木陽助



突然、徳永直 没後五十年記念シンポジウムのパネリストになれ、という声がかかった。自分で言うのも恥ずかしいが、決して適任ではない。適任者は他の沢山いるではないか。それなのに、なんで私に……。理由は簡単、三月に定年退職する私の方が、いろんな所からの風当たりが少なく無難だろう、というのである。じゃ、しかたがない。軽い気持ちで引き受けてしまった。その後、記念シンポジウムの内容やパネリストのメンバーを聞いて、後悔しかし、もう後の祭り。当日、他の人たちの足を引つ張ったのは間違いない。

またまた突然、今度は「徳永直の会」の「会長」役を頼まれた。三十年以上続けてこられた中村青史先生たちが引退され、新しく「国語研究会」のメンバーが後を引き継ぐことになったという。詳しい事情はわからない。しかし、ここでも一番年かきで暇そうにしているのが私ということになった。中村先生たちのご苦労は計り知れない。これ以上何時までも甘えるわけにもいかないだろう。世代

交代は当然かもしれない。しかも、今まで後輩として随分お世話になっている。と、いって、私は中村先生のような博学の学者でもない。後塵を排するにはあまりにも浅学非才。またまた、他の方々にも迷惑を掛けることになるだろう。と固辞しながらも、結局引き受けてしまった。この世情、働くことの意義を改めて考えてみることは自分の勉強にもなる。まあ、引き受けた以上、「孟宗忌」と「会誌」だけは必ず続けよう。出来れば……？会員の皆さん、どうぞよろしく。

(鎮西高校 講師)



没後50年記念シンポジウム
2008年5月31日 於パレアホール

どうもありがとうございます

旧会長 中村 青史

節目というのは、どこにでもあって、これがこういう節目だ、これより外にないなんていうことはない。熊本で徳永直を顕彰し始めたのも確かな節目であった。それは大きな節目で、文学碑を建てたり、短篇小説集を出版したりした。それから三十年が経った。小さな節目はその間にもあった。

しかし、今回はかなり大きな節目である。新しい時期が到来した。十年前のこと、この会報で若い後継者の出現を願った。現れなかった。出発当時の者は死んだり病に倒れたりした。年々老齢化は進んだ。熊本における徳永直の顕彰は、刻一刻終焉に向かっていった。

折しも徳永直没後50年記念事業が持ち上がった。熊本・徳永直の会はその母体であった。会員の皆様にも多大のご負担をお願いした。皆様に感謝一杯のうちに、徳永直没後50年記念事業は、『徳永直文学選集』の刊行をはじめ、輝かしい成功裏に終った。まさに大成功であった。だが同時に、従来の徳永直の会は思わぬ横波を受けた。会計の都合もあり、記念事業と直の会を重ねてしまった。そこで会員の皆様が混乱されることになった。記念事業の会員と従来の会員の区別が曖昧になり、金の出し方に迷われた。その結果、従来の会計がめちゃくちゃになった。これをどう立て直すか。没後50年記念事業と心中するのではないかと危ぶまれた。役員会は招集しても集まらなかった。会長は切腹ものであった。

そのような時、良報が舞い込んできた。徳永直が熊本県の近代文化功労者選ばれそうだというのであった。その選考委員の人々に

祈りたい気持ちだった。「ふるさとを石もて追はれ」た徳永直であり、時代が変っても、彼のふるさとでは、「赤だ」「赤は消すべし」との声が高く、その空気は教育界をも覆っていた。文化の遅れた地方では、小説における作品よりも作者の人格ないしは経歴を問題にする傾向がある。それで彼は、なかなかふるさとへ帰れなかったのである。しかし、彼のふるさととは、彼に文化功労者の称号を与えようというのである。何という名誉なことか。彼はふるさとへ帰れる。

十年一昔というならば、三昔もの永い間、徳永直の顕彰にかかわって来られた皆様、皆様に支えられて今日までやってこれた私、共に喜びたいと思いで一杯だ。そんな大節目が今やってきたのだ。

平成20年度熊本県近代文化功労者徳永直、熊本が誇る高レベルの文化功労者の一人となった徳永直、熊本県はこれからは率先してかれの顕彰を進めることになるだろう。徳永直を口にするこすら禁句とされていた教育界においても、これからは彼のすぐれた作品の数々を、国語教材として活用できるであろう。そうならば、徳永作品の研究、なかでも教材化できる作品の細かな検討も必要となり、熊本の徳永直の会に存在意義も高まってくるに違いない。そしてそれを担うにふさわしい気鋭の高校教師グループが登場したのである。

私は後期高齢者の仲間入りをした。実にいいタイミングで交替できることがうれしい。これまで私を支えて、徳永直を愛してこられた皆様に衷心より感謝の意を捧げたい。徳永直は、ふるさと熊本において、その輝きを増していくことだと思ふ。それには、彼の作品の研究と普及に勉めねばならない。私も微力を尽くすつもりだ。どうか会員の皆様、今後ますます熊本の徳永直を盛り立てていただきたいとお願いして会長退任の挨拶とします。

役員等改選の件

若返り人事が実現した。熊本徳永直の会は健在である。十年來の念願がかなえられた。以下新役員（決定済みのみ）を紹介する。

会長 高木陽助 鎮西高校 専任講師（国語）

事務局長 緒方宏章 熊本西高校教諭（国語）

広報係 永田満徳 必由館高校教諭（国語）

緒方氏は会計係兼務、永田氏は会報ほか広報担当。

（副会長ほか他の役員は総会までには選出）

総会と年間計画等の件

新しい組織作りが必要となる。会則にある総会をきちんと位置付けたい。年間計画も総会において承認を受けるようにしたい。総会は四月下旬、年三回の例会を持ちたい。そのほか、作品読書会の支援体制を作りたい。具体案は三月末日までにまとめ、総会日程の中で報告したい。会報の紙型も他の会同様A4版に変えたい。次回会報は、孟宗忌報告と総会案内を兼ねて四月月上旬には出す予定。

旧・新事務連絡所

△旧▽熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ド・漱雲

〒八六〇一〇八五五 TEL・FAX なし

△新▽熊本市二本木三丁目一―二八 熊本出版文化会館

〒八六〇一〇〇五一 TEL 〇九六一三五四一八二〇一

FAX 〇九六一三五四一八二三四

熊本・徳永直の会会則（案）

第一条（名称）本会は、熊本・徳永直の会と称する。
第二条（目的）本会は、徳永直の作家と作品を通じ、文学を楽しみ、民族のことは常に創造、刷新することを目的とする。

第三条（事業）本会は、前条の目的を達成するために左の事業を行う。
1、徳永直文学碑を守り、孟宗忌を開催する。
2、熊本・徳永直の会会報を発行する。
3、作品研究会、作品朗読会等を行う。
4、その他必要と思われる事業を行う。

第四条（組織）本会は、会員、賛助会員及び顧問をもって組織する。
1、会員は、本会の目的に賛同し年間会費を負担する。
2、賛助会員は、本会の活動を賛助し、応分の経済的援助を行う。
3、顧問は、本会の育成発展に寄与し、会長が推薦したものとす。

第五条（役員）本会に次の役員を置く。
1、会長 一名
2、副会長 一名
3、会計 一名
4、会計監査 一名
5、評議員 若干名
6、顧問をおくことができる。

第六条（会議）本会は、次の会議をもつ。
1、総会
2、評議員会
3、その他臨時総会

第七条（会計）1、会計年度は四月から三月とする。

2、会員の会費は当分年間一、〇〇〇円とする。
3、会費は必要に応じて変更する事ができる。
4、会計報告は会報誌上にて行う。

第八条（事務局）本会は、左の事務所を置く。

〒八六〇一〇〇五五 熊本市二本木三丁目一―二八

熊本出版文化会館 TEL 〇九六一三五四一八二〇一

FAX 〇九六一三五四一八二三四

付則

1、この会則は、二〇〇九年四月より施行する。

第三十二回 孟宗忌案内

日時 二〇〇九年二月十五日(日)

場所 ① 13:00~13:30 徳永直文学碑前
(立田口登山口、泰勝寺入口)

② 15:00~17:00 熊本近代文学館ロビー
献酒、献花、経過報告

③ 17:30~19:30 水前寺十徳や 懇親会
会費三、五〇〇円 当日受付

講話と朗読及びミニ展
講話 池田義一氏「演劇『他人の中』上演のころ」
朗読 熊本朗読研究会「他人の中」第9章
ミニ展 書齋復元と未発表原稿などの展示

② 15:00~17:00 熊本近代文学館ロビー
講話と朗読及びミニ展

会費納入者(二〇〇八年一月~十二月)

一般会員(三千円)

沢田 博行 西田 光子 米原 尋子 河原畑 廣 宮崎 静夫
寺澤 孝子 寺田 正 佐田 恭子 岩下 恵治 瀬口 賢一
御村 春子 光岡 達之 八浪 哲郎 吉良 初 寺岡 葵
海津翡翠 呂子

一般会員(二千円)

島寄 信子 山戸かずえ 渡辺 布威 緒方 直臣 平岡加久子
池田 義一 国米 真市 平 晋一郎

特別会員(一万円)

杉野 健一 中村 青史 岩本 税 丸山 幸子 高光 協三
井上 栄次 金野 文彦 上妻 四郎

寄附者

宮崎 静夫 丸山 幸子 高光 協三 光岡 達之 原田 三郎
渡辺 秀利 柘植 周子

△注V没後50年祭の会費との混同や、報告書「孟宗竹に吹く風」配
布時の文章不備により通常会費の納入が混乱している。

2008年度 会 計 報 告

2008年1月~12月(単位:円)

収 入		支 出	
一般年会費 (3,000×16)	48,000	事務所家賃 (15,000×12ヶ月)	180,000
" (2,000×8)	16,000	通信費 (電話代)	36,475
特別年会費 (10,000×9)	90,000	" (切手、はがき他)	17,480
寄 附	28,000	会報発行 No.52	18,900
文庫本等の売上	3,900	事務用品費	4,210
前年度繰越	105,355	孟宗忌	6,871
定額預金	200,000	小 計	263,936
" 利息 (H18年)	309	次年度繰越	227,628
合 計	491,564	合 計	491,564

2009年1月20日

上記の通り相違ありません。 会計 寺 澤 孝 子

会計監査

西田 光子
米原 尋子